



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

2017年の夏休み

館長 廣瀬 信一

今年の夏休みにはより多くの小・中学生に来館してもらうため、様々な企画を行いました。

まず、初の試みとして、6月に地元文京区の小・中学校の校長会に参加させていただき、当館の概要説明と夏休みの「野球で自由研究！」の内容を紹介し、併せて各学校にチラシを配布させていただきました。また、本年4月に野球文化の振興を目的に相互協力の協定を締結した、千葉県船橋市には教育委員会の協力を得て市内の各小学校に配布させていただきました。さらに近郊の学童野球チーム、球場、関係先などへ、約97,000枚のチラシを配布し、積極的な広報活動を行いました。



ここでは、今回初めて開催しました「ボールはなぜ曲がる？」と「クラブ先生の夏休み特別授業」について簡単に紹介いたします。

まず、「ボールはなぜ曲がる？」は、中京大学スポーツ科学部の桜井 伸二教授によるトークイベントでした。科学的実験データにもとづき、理論的にボールの変化の仕組みを説明する内容で、子供達にとっては難しい内容を、映像を使って解説してくださいました。質問コーナーでは、レベルの高い質問が相次ぎ、変化球に対する子供達の関心の高さが伺えました。

次に、「クラブ先生の夏休み特別授業」は「親子クラブ製作教室」で毎回お世話になっている、ミズノ(株)の御園 俊夫氏を講師にお招きして、クラブの歴史・製作・メンテナンスを中心に、野球用具にまつわるお話を、映像を交えながら、1日に3回行っていただきました。イベント終了後には、メモ帳を片手に親子で質問にくるなど、夏休みの課題に適したテーマだったと思います。

この様に、従前にも増した積極的な広報活動、またイベント内容の充実により、夏休み期間（7月20日～8月31日）の入館者数は前年比6,189人増（32%増）の25,462人となりました。



(各イベントについての詳細は2～4面をご覧ください。)

「第2回野球で自由研究！コンテスト」開催

今年も9月30日まで作品の受付をし、95件の応募がありました。11月25日(土)*から最優秀賞、優秀賞をはじめ1次審査を通過した作品を展示する予定です。また、ホームページ上でも最優秀賞、優秀賞の作品を公開します。なお、次号のニュースレターで審査結果と表彰式についてご報告いたします。

(※開館時間は、7ページをご覧ください)

The Baseball Museum

2017年 夏休みイベント「野球で自由研究！」のご報告

今年も野球で自由研究をやりたいという小・中学生をサポートする、「野球で自由研究！」を開催しました。

野球で自由研究！

会 期 2017年7月8日(土)～8月31日(木)

会 場 図書室、企画展示室

「野球で自由研究！」は、博物館のスタッフが子ども達と一緒に自由研究のサポートをする企画です。図書室では、自由研究のテーマに関連する書籍や雑誌、自由研究のやり方の本などを並べ、館内で調べたことをより詳しく調べられる場所を提供しました。また、企画展示室では、硬式野球の用具を手にとれるように並べました。

自由研究の申込用紙に記入した小・中学生は648人で、昨年に比べ108人の増加となり、人数を取り始めてから最高となりました。



企画展示室

【学年別の人数】

	人数	割合
小学校1年	16	2.5%
小学校2年	48	7.4%
小学校3年	122	18.8%
小学校4年	154	23.8%
小学校5年	168	25.9%
小学校6年	113	17.4%
中学校1年	13	2.0%
中学校2年	3	0.5%
中学校3年	5	0.8%
その他	6	0.9%

学年別では、低学年への広がりを見せ、2年生が昨年の26人から22人増加し、48人となりました。3年生から6年生の4学年の子ども達は、すべて100人を超え、合計557人となり全体の86.0%を占めました。

テーマ別では、野球用具を選ぶ子ども達が昨年に比べ8.4%増え、67.9%となりました。その中でボールについて調べた子どもが149人と、昨年の82人から大幅に増えました。それは軟式ボールが新しくなることで、ボールをテーマに選んだ子どもが増加したと考えられます。

【学年別自由研究のテーマ】

学年	歴史	用具全体						変化球	野球場	その他
		用具全体	ボール	グラブ	バット	ユニホーム				
小1年	3	2	7	6	3	1	1		1	
小2年	6	2	15	9	7	2	1	3	10	
小3年	25	9	28	25	22	2	7	1	25	
小4年	37	11	33	32	22	5	11	3	29	
小5年	41	8	28	41	25	2	8	5	31	
小6年	26	5	30	22	19		5	2	20	
中1年	1		6	1	1		4		0	
中2年	1						1		2	
中3年			2	3					3	
その他					4				0	
計	140	37	149	139	103	12	38	14	121	



図書室

ミニミニ実験コーナー

開催日：7月21日～8月31日（当館でイベントのある日は除く）

時 間：14:00～、15:00～（30分程度）

会 場：企画展示室

自由研究のテーマになりそうな話題を紹介するプレゼンテーションで、この実験をもとに自由研究のテーマを決め、まとめる子ども達の姿が大変多く見られました。また、カーブの鈴木 誠也選手やホークスの柳田 悠岐選手のバットを実際に持ち、長さや重さを体感することは、子ども達にとって、大変貴重な体験になったと思います。

14:00～

①変化球のひみつ

風船や紙筒を使って、回転して変化球の基本的な原理を説明。



鈴木選手のバットの重さや長さを体験する

②プロ野球選手の

バットをはかってみよう！

バットの規則を説明。鈴木選手、柳田選手のバットの長さや太さを測り、重さを量る。小学生限定で白手袋をして実際に持ち、長さや重さを体験。

15:00～

①ボールのひみつ

ボールの規則を説明し、硬式ボールと軟式ボールのできるまでを説明。



現在のグラブの大きさ、形を見る

②昔と今のグラブをくらべてみよう！

明治時代（レプリカ）、昭和初期（レプリカ）、現在のプロモデルのグラブを比較。

野球が100倍楽しくなる 野球の記録をつけてみよう！

日 時：2017年7月23日(日) 10:30 (追加)、14:00～
8月2日(水) 10:30 (追加)、14:00～ (各回1時間30分程度)

会 場：イベントホール

講 師：元NPBセ・リーグ記録部長 石井 重夫 氏

当初2回の講演予定でしたが、申込者数が大変多く4回講演となりました。参加者176人のうち82人が小・中学生でした。元プロ野球公式記録員である石井 重夫氏から早稲田式スコアの記入方法を教わった後、野球の試合映像を見ながら、1球ごとに考えながら、つけていきました。講演終了後にも、石井氏に質問する親子の姿が数多くありました。



夏休み審判学校！

日 時：2017年7月28日(金)、8月11日(金・祝日) 両日とも 14:00～ (2時間程度)

会 場：イベントホール

講 師：野球規則委員 井野 修 氏、審判長 友寄 正人 氏、審判技術委員 山崎 夏生 氏、平林 岳 氏、栄村 孝康 氏

協 力：一般社団法人 日本野球機構

毎年、好評をいただいている「夏休み審判学校！」は、過去最高の290人の参加がありました。講義の前半は、審判員について、審判員の一日、野球の歴史についてのお話でした。後半はストライク、ボール、アウト、セーフのジャッジを本物のプロ野球審判員から教わり、実際にジャッジするという貴重な体験をしました。子ども達は“先生”の話をメモし、写真に収めるなど真剣に“授業”を受けていました。



ボールはなぜ曲がる？

日 時：2017年8月6日(日) 11:00～ (1時間程度) 会 場：イベントホール

講 師：中京大学スポーツ科学部 桜井 伸二 教授

今年初めて開催したイベントで、多くの子ども達が疑問に思う「ボールはなぜ曲がる？」をテーマに、中京大学の桜井先生にお話ししていただきました。いろいろなボールを落とした時の映像、回転をかけて落とした時の映像などを使いながら、説明していただきました。また、飛行機の翼など身近な例を挙げながら、ボールの運動について、図を交えて解説していただきました。質問コーナーでも、子ども達の質問に丁寧にお答えいただきました。



バット製作実演

日 時：2017年8月19日(土)、20日(日) 10:30～、12:00～、14:30～ (各回1時間程度)
会 場：イベントホール 協 力：ミズノ株式会社

本年も渡邊 孝博クラフトマンに、実演を行っていただきました。原料の木材やバット製作の工程についてのお話、バット製作の実演、紙やすりかけ体験(小学生3～4名限定)を実施していただきました。各回とも開始前から席が埋まる盛況で、メモやカメラを手に、熱心に見学する子ども達が多く見られました。また、質疑応答コーナーでは、自由研究目的の子ども達などから沢山の質問があがり、1つ1つ丁寧に回答いただきました。



親子クラブ製作教室

日 時：2017年8月21日(月) 13:30～ 会 場：イベントホール
協 力：ミズノ株式会社



今年は、過去最多の302通の応募があり、抽選で選ばれた15組30名の親子が参加しました。

当日はミズノ株式会社スタッフ4氏のご指導のもと、約2時間かけてひも通しの作業を行いました。

自由研究向けに作業工程の写真を撮ったり、スタッフに積極的に質問したりしながら作業をする親子が多く、各組とも力を合わせて、世界でただひとつの自作クラブを完成させました。

クラブ先生の夏休み特別授業

日 時：2017年8月24日(木) 11:00～、13:30～、15:00～ (各回30分程度)
会 場：イベントホール 協 力：ミズノ株式会社

今年初めて開催したイベントで、クラブのできるまで、その構造、使い方、手入れ法などをミズノ株式会社の御園 俊夫氏にお話いただきました。メモやカメラを手にして熱心に話を聞く子ども達が多く、各回とも用意した約50席がほぼ一杯となりました。





森岡 二郎氏

殿堂入りの人々を語る(57)

祖父 森岡 二郎 の思い出

立花 典子 (1969年野球殿堂入り 森岡 二郎氏孫)

祖父 森岡 二郎は、昭和16 (1941) 年3月より日本野球連盟*初代会長を務めました。戦時下におけるプロ野球存続に尽力したとして、昭和44 (1969) 年に野球殿堂に入れて頂きました。

祖父は戦前、内務・警察官僚でした。島根、青森、茨城、栃木県の知事、その後朝鮮総督府警務局長、台湾総督府総務長官等、忙しく過ごした様です。私の母 (三女・黒川 園子) は祖父の転勤に伴い、小学校を8回も移ったそうです。母はただ今98歳ですが元気にしており、今でも時々祖父の思い出話をしております。

大正12 (1923) 年9月1日の関東大震災の時に、祖父は神奈川県警察部長を致しており、沖に停泊中のコレア丸まで泳ぎ、横浜の罹災の状況と救援を求める第一報の無線電信を打ったという武勇伝があります。祖父の楽しみは野球観戦でした。住まいも神宮球場に近い千駄ヶ谷を選んだ程でした。祖母や母も一緒にたびたび神宮球場に通ったそうです。しかし大変悲しい事もありました。長女・道子、次女・淑子が結核を患い10代の若さで相次ぎ亡くなってしまった事です。その事もあり長男・健や私の母の健康には非常に気を遣っていた様です。

私の記憶の中の祖父は、空襲により家を失い、戦後公職追放になり、その上病に侵されるという晩年の姿です。祖父母は東京空襲で千駄ヶ谷の家を焼け出され、しばらく祖父の故郷の奈良で過ごしました。私は1年程祖父母のもとに預けられ、可愛がってもらいすっかり年寄りになりました。先日奈良に旅行しました折、ホテルの朝食でお茶粥が出て、小さい頃に祖父母といただいた事を思い出しく感じました。

戦後、祖父母は奈良から戻り、母一家と千駄ヶ谷の焼け跡に小さな家を建てて暮らしました。母は戦中戦後のわずかな時期を除き、ほとんど祖父母と一緒に生活することができて大層幸せだったと思います。もちろん祖父母も母夫婦を頼りにしていたに違いありません。非常に質素な生活でしたが、いつも姿勢正しく謹厳実直な祖父と穏やかでやさしい祖母と過ごすことができた日々は、私にとっても何物にも代えがたいものです。また、私の妹は左利きでしたが、祖父はそのままでは不都合が多いだろうと考え、お箸と鉛筆だけは直した方が良く根気よく注意してくれました。そのおかげで、妹は今でも書道や茶道のお炭手前の時など、折に触れ祖父に感謝していると申しております。

野球関係の皆様との交流は、途切れる事もなく続き、祖父は皆様の暖かいお心に感謝しておりました。昭和25 (1950) 年12月に祖父は亡くなりましたが、その後も野球連盟の皆様にはご親切に頂きました。私も時々後楽園に野球を観に参りましたが、当時セントラル・リーグの会長でいらした鈴木 龍二様 (1982年殿堂入り) から、当時のスターの川上 哲治選手 (1965年殿堂入り) や藤村 富美男選手 (1974年殿堂入り) の写真とサインのついた筆箱や下敷きを頂き、宝物にしていた事を覚えております。また、祖母や母の話にはよく小西 得郎様 (1971年殿堂入り) や中沢 不二雄様 (2002年殿堂入り) のお名前が出ておりましたので、テレビでお二人を拝見した時には、とても親しみを感じました。近頃は私が子供や孫を野球殿堂博物館に連れて行き、祖父の思い出を話しております。

祖父が亡くなりましてから、70年近くになりますが、皆様にはいつまでも祖父の事を大切に扱って頂きまして、心より感謝申し上げます。

*日本職業野球連盟が改称し、日本野球連盟となった。現在の日本野球連盟とは異なる。

企画展 「プロ野球 東京のロストボールパーク」 開催中！



現在当館で開催中の企画展「プロ野球 東京のロストボールパーク」では、後楽園スタジアム、駒澤野球場、東京スタジアムをはじめ、東京都内の今は無き野球場“ロストボールパーク”をご紹介します。

本展開催にあたり、後楽園スタジアムで1959年6月25日に開催された巨人対阪神の「天覧試合」において、長嶋 茂雄選手（1988年殿堂入り）がサヨナラ本塁打を含む2本のホームランを放った貴重なバットを、同氏よりご出品いただきました。この長嶋選手の「天覧試合ホームランバット」は、実に26年ぶりの一般公開となります。

また、これらの球場で開催された5試合の名勝負の公式スコア（写真を含む）を、日本野球機構のご協力により公開しており、特に「天覧試合」の公式スコア（原本）は初公開です。その他、東京スタジアムの部分模型、駒澤野球場時代の東映フライヤーズのユニホーム（米川 泰夫投手着用）等、貴重な資料を展示しています。

トークイベント開催予定 詳しくは当館ホームページをご覧ください。

企画展「プロ野球 東京のロストボールパーク」関連企画として以下のトークイベントを開催予定です。

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・日時 11月16日(木) 16:00～ 1時間程度 ・内容 張本 勲氏（1990年殿堂入り）トークイベント | <ul style="list-style-type: none"> ・日時 11月18日(土) 15:00～ 1時間程度 ・内容 公式記録員のしごと
講師 山川 誠二氏（NPB公式記録員） |
|---|---|

野球殿堂博物館 トピックス (2017年8月～10月)

球団デー



7月31日、8月1日



8月4日～6日



8月8日～10日

記者会見

侍ジャパン社会人代表記者会見開催

9月26日(火)11:30より、当博物館の野球殿堂ホールにおいて、「第28回BFAアジア選手権大会」(10月2日～8日 於 台湾)に出場する侍ジャパン社会人代表の監督、選手による記者会見が開催されました。

会見には、石井 章夫監督（東京ガス）と、佐藤 旭主将（東芝）、田中 俊太内野手（日立製作所）、田嶋 大樹投手（JR東日本）が出席し、それぞれが、大会に向けての抱負等について語りました。

※10月8日(日)、侍ジャパン社会人代表が全勝で2大会ぶりの優勝を果たしました。優勝トロフィーは当館にて展示中です。



寄贈式 & 展示

阿部 慎之助選手来館！ 通算2000安打達成バット等 ご寄贈

9月16日(土)、読売ジャイアンツの阿部 慎之助選手が来館し、8月13日(日)広島戦での通算2000安打の記録達成バット等をご寄贈いただきました。



岩瀬 仁紀投手来館！ 通算950試合登板関係資料 ご寄贈

9月27日(水)、中日ドラゴンズの岩瀬 仁紀投手が来館し、8月6日(日)巨人戦で達成した日本新記録・通算950試合登板時の第1球等をご寄贈いただきました。



プロ野球通算本塁打10000号 記念展示 他

9月29日(金)にオリックスのマレー口選手が達成した、プロ野球通算本塁打10000号ホームランボールを展示しました。また、9月5日(火)にソフトバンクのサファテ投手が達成したシーズン最多セーブ記録(47)達成時使用球等、9月26日(火)に中井 大介選手による巨人のプロ野球初・球団通算10000号本塁打ボール等も展示しました。



博物館からのお知らせ

▶リニューアル検討委員会

当博物館は、開館して58年、東京ドーム内に移転して約30年が経過いたしました。移転した当時と比較して、野球の周辺環境は大きく変化いたしました。特に、次世代を担う子供達の野球離れが深刻化しています。

この様な状況下、今後を見据えた博物館のあるべき姿を検討する「在り方検討委員会」を2016年に設立し、5月に報告書をまとめ理事長に提出いたしました。報告書には、多くの課題があり、実現のためには、外部、内部委員で構成する組織を立ち上げることが、発展の第一歩となるとの提言がありました。

これを受けて、理事長から組織を早急に設立する旨の指示があり、12月に10名からなる「リニューアル検討委員会」を立ち上げ、本年9月までに4回の会合を開催しました。中間報告として①入館者②収蔵資料③野球殿堂ホールについて各委員の意見をまとめ、10月の理事会で報告いたしました。今後は、来年6月の評議員会での「基本計画」の提出に向けて、さらに協議を進めてまいります。

▶時間変更

★図書室利用時間の変更のお知らせ

下記のように、図書室利用時間が変更になります。

利用時間 11月9日(木) 10:00~13:00
11月26日(日) 15:00~17:00

★開館時間変更のお知らせ

下記のように、博物館開館時間が変更になります。

開館時間 11月25日(土) 10:00~14:00(入館は13:30まで)

ご迷惑をおかけしますが、予めご了承下さいますようお願いいたします。

▶退職

当館司書の森澤 ひかるが8月31日付で退職いたしました。

●編集後記

博物館では、これからもさまざまなイベントを開催する予定です。皆さま、ぜひご来館ください。

紙面の都合上「知ってほしいこんな資料」「こんにちは図書室です」「コラム博覧/博楽」は休載します。

▶販売中

●野球守 11月1日 新色発売開始！ 1体 800円(税込)

野球守に新色が仲間入りいたします。従来の「黒」と新色「白」になります。皆様の思いをこの野球守に込めて、ご祈禱いたしております。11月1日より販売を開始いたします。

なお、お手元にあります野球守は、当館設置の返納箱にお納めください。

※郵送希望の方は、「野球守希望」と明記の上、代金(野球守代+送料)を現金書留で当館までご送付下さい。

野球守：1体 800円 ※白か黒どちらか希望の色をご記入下さい

梱包送料：1体~10体まで 100円

(11体以上の場合は、当館までご連絡下さい)

●公式ボールの梱包送料変更のお知らせ

諸般の事情により、右記のとおり公式ボールの梱包送料を変更いたします。

ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

新 梱 包 送 料	1個	350円
	2~3個	500円
	4~6個	700円
	7個以上	無料

※2018年1月発送より

場 所 東京ドーム21ゲート右
開館時間 3月1日~9月30日 AM10時~PM6時(入館は閉館の30分前まで)
10月1日~2月末日 AM10時~PM5時
入館料 大人 600円(500円) ()は
高・大学生 400円 20名以上の団体
小・中学生 200円(150円)
65歳以上 400円
休館日 月曜日(祝日、東京ドームでの野球開催日、春・夏休み中は開館年未年始(12月29日~1月1日))

【11月・12月・1月の休館日】

11月 6日・13日・20日・27日
12月 4日・11日・18日・25日 ※12月29日~1月1日まで年末年始休館
1月 15日・22日・29日

野球殿堂博物館 Newsletter 第27巻 第3号

2017年10月25日発行(年4回発行)

編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館
(旧・財団法人 野球体育博物館)

〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61

Tel 03 (3811) 3600 Fax 03 (3811) 5369

http://www.baseball-museum.or.jp/



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

リレー随筆 (68)

ホームランの記憶

競技者表彰委員会幹事 山脇 幸二 (読売新聞)

巨人担当の駆け出しだった頃、松井 秀喜選手の驚異的な能力に目を見張ったことがあった。ルーキー時代からのすべての本塁打について、球場、相手投手、イニング、カウント、球種、打球方向などの詳細な状況を覚えているというのだ。一流のプロ野球選手というのは、技術や体力だけでなく、記憶力も人並み外れているのだなと深い感銘を受けた。

日本野球機構 (NPB) はプロ野球通算本塁打が10万号に到達するのを機に、9月から記念プロジェクトを展開した。1936年5月4日に大阪タイガースの藤井 勇選手が東京セネターズ戦 (甲子園) でランニング本塁打で第1号を記録して以来、82年の歳月をかけ、先人たちが積み重ねてきた数字。記念すべき10万号は、オリックスのクリス・マレーロ選手が9月29日のロッテ戦で記録し、賞金100万円を手にした。

松井選手とは比べ物にならないが、観戦者としての私にも何本かの記憶に残る特別な本塁打がある。王 貞治選手 (巨人) の756号をテレビで見たのは、小学4年生の時だった。世紀の瞬間を記録しようと、背番号1が打席に入るたびにラジカセをテレビの前に置き、実況中継を録音した。しばらくは宝物のように大切にしていたカセットテープは、もうどこかへ行ってしまったが、あの右中間への見事な放物線は、今でもありありと思い出すことができる。

球場で見た中で最も強烈な印象に残っているのが、ラルフ・ブライアント選手 (近鉄) の4連発だ。1989年10月12日の西武とのダブルヘッダー。大学4年の私は西武ファンの友人に「大学時代の思い出として、森監督の胴上げを見たい」と誘われ、西武球場へ足を運んだ。ところが、待っていたのはブライアント選手の独り舞台。マウンドにうづくまる渡辺 久信投手 (西武) の姿と、同じくらいに打ちひしがれていた友人の表情が忘れられない。

その年、パ・リーグを制した近鉄は、日本シリーズで巨人と対戦した。巨人が3連敗から4連勝して日本一に輝いた伝説のシリーズで、思い出に残るのが、第5戦 (東京ドーム) で原 辰徳選手 (巨人) が放った満塁本塁打だ。このシリーズ、原選手はそれまで14打数0安打と絶不調。七回のピンチで、近鉄バッテリーはウォーレン・クロマティ選手を敬遠し、原選手との勝負を選んだ。主砲のプライドを傷つけられた原選手は、豪快なスイングで左翼席へたたき込み、リードを5点に広げた。シリーズの流れを引き寄せたこの一発を、私は左中間の観客席で目の当たりにした。日本シリーズなので10万号にはカウントされないが、私の記憶の中では5本の指に入るドラマチックな本塁打だ。

その28年前の原選手の劇的本塁打を再現したような一撃が、今年、見られた。6月18日の巨人ーロッテ戦 (東京ドーム)、延長12回に亀井 善行選手 (巨人) が放った逆転サヨナラ3ランだ。この試合の亀井選手は、8回と10回にケーシー・マギー選手が目の前で敬遠された好機で、いずれも凡退。12回も一死二塁でマギー選手が歩かされ、打席が回って来た。選手としてはこれ以上ないと言ってもよい屈辱を、亀井選手は晴らした。打った瞬間に分かる右中間席への一発。ヒーローインタビューで亀井選手は「もう奇跡としか言いようがない」と男泣きした。家族と食卓を囲みながらテレビ観戦していた私も、思わずもらい泣きしたのは言うまでもない。

「野球の華」とうたわれる本塁打は、いつの時代もファンに熱い感動を与えてきた。王さんは本塁打の魅力「球場内のすべての人の視線を集め、ダイヤモンドを回る。その間は時間が止まったように感じられる」と語っている。1点を巡る息詰まる攻防も見応え十分だが、一発で試合の流れを変える本塁打は、いつまでも人々の記憶の中で生き続ける。来シーズンはどんな本塁打が見られるのか、楽しみでならない。